

- 問1 広島県の農業産出額の構成において、畜産（約23%）や果実（約16%）、米（約13%）を上回り、全体の約4割近くという最も高い割合を占めている品目は何ですか。（2017年 富山県公立入試 類似）
- | | | | |
|------|-------|-------|-------|
| 1. 米 | 2. 果実 | 3. 野菜 | 4. 畜産 |
|------|-------|-------|-------|
- 問2 香川県をはじめとする瀬戸内地方の地域では、山地に囲まれた地形の影響で年間の降水量が少なく、古くから干ばつの被害に悩まされてきました。このような気候条件のなかで、安定して稲作を行うために作られた「ため池」の役割について、最も適切な説明を選びなさい。（2019年 和歌山県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------------------------|---------------------------------|------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 雨の少ない時期に備えて、農業に必要な水を貯蔵する | 2. 大規模な洪水が発生した際に、河川から溢れた水を受け止める | 3. 急峻な河川の流れを利用して、農業用の電力を発電する | 4. 都市部で不足する生活用水を供給するための貯水池として活用する |
|-----------------------------|---------------------------------|------------------------------|-----------------------------------|
- 問3 島根県東部における1989年と2019年の工業団地の分布を比較すると、近年は新しく整備された自動車専用道路（国道9号・54号のバイパス等）の沿線に工業団地が目立つようになっています。このような工業の立地傾向について述べた文として、正しいものはどれですか。（2024年 島根県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--------------------------------------|--------------------------------------|--|
| 1. 高速道路網の整備にともない、製品の搬出に適した道路沿いへの立地が進んだ | 2. 大型船の入港を前提とした重化学工業が、内陸のバイパス沿いに進出した | 3. 労働力を確保するため、駅前などの鉄道の利便性が高い場所に集約された | 4. 騒音問題を避けるため、交通量の多い道路沿いから鉄道沿線へと移転が進んだ |
|--|--------------------------------------|--------------------------------------|--|
- 問4 鳥取県の農業について述べた次の文のうち、産出額の構成とその背景について説明したものとして正しいものはどれですか。（2017年 富山県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 干拓によって得られた広大な平地を利用した、大規模な稲作が中心となっている。 | 2. 瀬戸内海の温暖な気候と傾斜地を活かした、レモンやみかんなどの果実栽培が中心である。 | 3. 大山の裾野に広がる広大な土地を利用して、牛や鶏などの飼育が盛んに行われている。 | 4. 大都市に近い立地を活かし、キャベツやレタスなどの近郊農業が産出額の半分以上を占める。 |
|--|--|--|---|
- 問5 日本海側の鳥取、瀬戸内沿岸の高松、太平洋側の高知の三都市における雨温図の統計を比較した際、高松の降水量が他の二都市に比べて著しく少なくなる理由を、周辺の地形的特徴に触れて述べたものを選びなさい。（2020年 島根県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 日本海から吹き込む冬の季節風が中国山地を越える際に水分を失い、さらに四国山地を越える際に温められることで高松周辺の雨雲が消滅するため。 | 2. 鳥取は冬の季節風、高知は夏の季節風や台風の影響で降水量が増えるが、高松は二つの山地に挟まれてそれらの湿った空気が届きにくい。 | 3. 高松は標高の高い山々に囲まれた盆地状の地形であり、周辺の都市に比べて上昇気流が発生しにくく、常に乾燥した下降気流にさらされるため。 | 4. 太平洋からくる湿った空気が四国山地で雨を降らせた後、高松を通り越してさらに北にある鳥取付近で再び雨を降らせるという循環構造があるため。 |
|--|---|--|--|
- 問6 愛媛県産の養殖マダイの生産量と全国シェアの推移をまとめた資料では、1990年代半ばを境に生産量が増加傾向に転じています。この時期に起こった社会資本の整備と、それが産業に与えた影響について述べたものとして正しいものはどれですか。（2023年 福井県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 瀬戸内海の干拓が進んだことで、養殖いかだを設置するための静穏な海域が飛躍的に拡大した。 | 2. 四国内の鉄道網が電化・複線化されたことで、貨物列車による大量輸送が養殖業の主流となった。 | 3. 高速道路網と本州を結ぶ橋が整備されたことで、京阪神などの大都市圏に向けた迅速な出荷体制が整った。 | 4. 大規模な港湾施設が整備されたことで、海外から安価な餌を大量に輸入できるようになり、生産コストが激減した。 |
|--|---|---|---|
- 問7 四国地方の各県の県庁所在地について述べた文として、正しいものを次のうちから選びなさい。（2025年 高知県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 徳島県の県庁所在地は松江市であり、鳴門の渦潮に近い場所に位置している。 | 2. 香川県の県庁所在地は高知市であり、讃岐うどんの生産が非常に盛んである。 | 3. 愛媛県の県庁所在地は松山市であり、夏目漱石の小説の舞台にもなった温泉地がある。 | 4. 高知県の県庁所在地は徳島市であり、太平洋に面したカツオ漁の拠点となっている。 |
|--|--|--|---|
- 問8 西日本の地図において四国地方の西側を占め、瀬戸内海や宇和海に面した温暖な気候をいかして果樹栽培が発達し、特に「みかん」の生産で全国的に有名な県を選びなさい。（2019年 北海道公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|--------|--------|---------|
| 1. 大分県 | 2. 愛媛県 | 3. 広島県 | 4. 和歌山県 |
|--------|--------|--------|---------|
- 問9 島根県の土地利用と工業立地の関係について述べた次の文のうち、正しいものはどれですか。（2021年 東京都公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 県内全域で林業が衰退したため、跡地を利用して沿岸部から内陸部まで一貫して自動車産業の組み立て工場が誘致されている。 | 2. 沿岸部には歴史的背景から鉄鋼業が立地し、内陸部には高度な技術を要する電気機械工業の工場が進出している。 | 3. 沿岸部の広大な砂丘を利用して大規模な太陽光発電所が建設され、内陸部はすべて国立公園として保護されているため工業は存在しない。 | 4. 内陸部の急峻な地形を利用した水力発電により、沿岸部には電力を大量に消費する化学工業が集中している。 |
|--|--|---|--|
- 問10 日本の国内貨物輸送において、1980年代から現代にかけての輸送手段別の割合の変化をたどると、鉄道や内航海運が減少する一方で、現在は全体の約半分を占めるまでに成長し、最も高い割合となっている輸送手段は何ですか。（2024年 岐阜県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|----------------|---------|---------|
| 1. 鉄道輸送 | 2. 自動車（トラック）輸送 | 3. 内航海運 | 4. 航空輸送 |
|---------|----------------|---------|---------|
- 問11 本州四国連絡橋（瀬戸大橋）の開通に関連して、交通の高速化が社会にもたらした仕組みや背景について述べた文として、正しいものはどれですか。（2023年 福岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 高速道路と鉄道が同じ橋を通る併用橋として整備され、人や物の移動の効率化と移動時間の短縮が図られた。 | 2. 橋の建設に合わせて周辺の海域がすべて埋め立てられたため、四国地方の深刻な水不足が解消されるきっかけとなった。 | 3. 瀬戸内海沿岸に新しい工業団地を造成するために、橋の橋脚を利用した大規模な水力発電所の建設が行われた。 | 4. フェリーによる海上輸送を完全に廃止し、すべての物流を鉄道輸送に一本化することを目的として建設された。 |
|--|---|---|---|
- 問12 四国地方における交通網の整備とその影響について述べた次の文のうち、1985年から2015年の交通手段別利用者数の推移から読み取れる状況として、歴史的背景をふまえて正しいものはどれですか。（2020年 鳥取県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 橋の開通によって船舶の利用価値が見直され、自動車と船舶を併用する利用者が2015年にかけて倍増した | 2. 本州四国連絡橋の開通によって自動車の利用が飛躍的に伸びた一方で、鉄道の利用割合は減少傾向にある | 3. 瀬戸大橋の開通によって鉄道の利便性が飛躍的に高まったため、2015年時点では鉄道が最大のシェアを占めている | 4. 航空機の大型化と空港の整備が進んだ結果、自動車を上回るペースで航空機の利用者数が推移している |
|--|--|--|---|